

## 2012年度FD活動報告

フェリス女学院大学FD委員会  
委員長(学長) 秋岡 陽  
副委員長(教務部長) 藤本 朝巳

2009年度以降、大学FD委員会では活動の理念を大学組織全体に定着、浸透させるため、年間の活動計画を策定し、主導的役割を担ってきました。講演会、本学教員によるパネルディスカッション、模擬授業、ワークショップ、学生による座談会等の活動を開催し、広報誌などで公表する一方、授業改善に資する重要な課題としてシラバスの改善にも取り組み、成果を上げています。

FD活動は、その呼称から単発的な行事と捉えられ、参加した人数など開催日の結果だけに注目が集まりやすい面があります。これを見直し、2009～2011年度の活動を振り返り、共有するところから着手しました。

### 1. 単位の実質化に向けて～学生主体のシラバスへ～

2009年度はシラバスの記入項目を大幅に再構築するための検討を重ね、2010年度から実施しました。新設した項目は①到達目標、②教室外の学習方法、③予め履修が望ましい科目、の3点です。

目的は、教員主体の「何を教えるか(という予定)」ではなく、学生が「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という観点で記すことによって、学生の主体的な学びを促すことです。

これを徹底するため、シラバス執筆要領(作成マニュアル)には作成例とともに、項目ごとに注意点を詳述しました。従来の「主題と目標」を「授業の概要」と①「到達目標」に変更し、「授業計画」は15週(回)分に分割して記入することを必須としました。

新設項目の②「教室外の学習方法」では、主体的な学びの指針として、授業の事前準備、事後の理解のために必要な行動、つまり学生が「すべきこと」、「具体的な準備学修内容」を示しました。③「予め履修が望ましい科目」は、前提となる理論や基礎知識の修得が必要な場合、他の授業科目との関連性や順次性に触れ、体系的な学修の道筋を示す役割も果たしています。

さらに、2011年度以降は「成績評価方法」の記入を必須とし、試験、レポート、平常点、その他(加点・減点要素)の内訳(割合)を明示すること、特に「平常点」の項目は、単に出席を指すのではなく、授業への参加やレスポンスシートの提出など、「単位修得のために何をしなければならないか」、学修行動の目安を明らかにしました。

これらのシラバスは、Webにより公開されていますが、予め各カリキュラム責任者が「授業計画」、「成績評価方法」の適切性等について点検、精査しています。

このような取り組みの結果、シラバスは、学生が科目を選択する学期初めだけ参照するカタログではなく、授業終了時に到達目標をどの程度達成できたか自己評価する指標にもなりました。その一例として、学生からの「成績評価確認願(異議申立て、問い合わせ)」件数が2010年度以降半減したことが挙げられます。改善後のシラバスにおける「到達目標」「成績評価方法」が有効に機能し、学生がやるべきことを理解した点で成果と言えるでしょう。

2012年度は、こうした効果や後述する第1回FD講演会(10月24日(水))などをふまえ、さらにシラバスの記入項目に改良を加えました。具体的には、「教室外の学習方法」を「授業外(事前・事後)の学習方法」に、「予め履修が望ましい科目」を「履修前提科目、関連科目」に変更した点で、学生の自律的、段階的で体系的な履修に役立てることを目的としています。

## 2. カリキュラムの点検～カリキュラム・チェックリスト(CCL)の作成

2010年度は、各学部・学科のディプロマ・ポリシーを策定、2010～2011年度のカリキュラムマップ作成に続き、2012年度はディプロマ・ポリシーの達成にそれぞれの授業科目がどのように寄与しているかを点検するため、7月～9月にかけて各学部・学科でカリキュラム・チェックリストの作成に取り組みました。

この点検は、学部・学科ごとのディプロマ・ポリシーを、観点別に新規に書き表したうえで、シラバスのうち「知識・理解」「関心・意欲・態度」「技能・表現」という3つの観点別の到達目標を素材として行いました。各学科の点検結果は大学FD委員会で報告され、達成の度合いや課題が確認されました。

この点検作業は、第1回FD講演会（10月24日（水））での研究討論会に向け有効な準備となりました。

### 3. 第1回FD講演会

日時：2012年10月24日（水）16:00～18:00

会場：緑園キャンパス 7206 教室

プログラム

第1部 講演会「DP、CPに基づく内部質保証システムの構築～次の一步に何が必要か～」

第2部 カリキュラム・チェックリストに基づく研究討論会

講師：沖 裕貴 先生（立命館大学教育開発推進機構教授、教育開発支援センター長）

司会：藤本 朝巳 教務部長（大学FD委員会副委員長）

#### 概要(第1部)

質保証のために PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを回すことの重要性の説明があり、ディプロマ・ポリシーは建学の精神や学則に定める目的・使命といったものとは違い、何度も修正されるものだと強調されました。

この PDCA サイクルを回すために必要なこととして、抽象的なディプロマ・ポリシーからブレークダウンして具体的なディプロマ・ポリシーを各学科で定義することの重要性と、具体化のために「観点」を導入して整理することの説明がありました。

そしてカリキュラムからディプロマ・ポリシーにつなげるために、各科目の到達目標を観点別に見直す作業と、その作業にあたり「学生が〇〇できるようになる」と学習者を主語にすること、「理解する」などの概念的なことばではなく「説明できる」などの行為動詞で表現することの必要性が述べられました。

#### 概要(第2部)

各学科が作成したカリキュラム・チェックリストをもとに活発な質疑応答や議論がありました。チェックリスト作成の経験から出された疑問や課題に対しては、

- ・複数の科目（カリキュラム）でディプロマ・ポリシーに到達できれば良く、単独の科目で観点別ディプロマ・ポリシーのすべてをカバーする必要はない。
- ・チェックリストは単独の科目をチェックするために用いるのではなく、科目全体のバランスを確認するツールである。
- ・カリキュラムとディプロマ・ポリシーの関連がうすい場合にはディプロマ・ポリシー自体を見直してもよい。見なおすことこそが質保証の PDCA サイクルを回すことである。という視点を得て、理解を深めました。

また、成績評価についてルーブリックの有効性、有用性の紹介がありました。ルーブリックは成績評価の規準と基準を明確にするためのツールという面から、一見、芸術系・実技系科目との相性が悪そうに見えるが、実は一番相性があうという意外な実例が紹介され、音楽学部の教員にとっても興味深いものようでした。さらにルーブリックを用いることで成績評価の透明性が確保され、S、A 評価を制限するといった単なる相対評価でしかない「厳格な成績評価」から本質的な意味での「厳格な成績評価」が可能になることが紹介されました。加えて予めルーブリックを提示することによってレポートの質が高まるなどの効果が認められるとの説明があり、本学での導入について貴重な示唆を与えられました。



講演会「DP、CPに基づく内部質保証システムの構築～次の一步に何が必要か～」の様子

## 4. 第2回FD講演会

日時：2012年11月7日（水）18:20～20:00

会場：緑園キャンパス 7203 教室

プログラム：「学士課程における言語・文学分野の参照基準について」レクチャー&シンポジウム

講師：長島 弘明 先生（日本学術会議会員、言語文学委員会委員長、東京大学大学院教授）

司会：藤本 朝巳 教務部長（大学FD委員会副委員長）

進行：谷 知子 文学部長

### この講演会を企画したねらい

文科省から審議依頼がなされ、日本学術会議が三本柱としている「職業教育・教養教育・学問の参照基準」のうち、各学問領域の到達目標に相当する「参照基準」について理解を深め、大学教育の質保証の一貫として共通認識とすることを目標としました。特にほぼ策定を終えた言語・文学の参照基準については、文学部をはじめ本学との関わりが深いため、動向を注視してきましたが、7月14日（土）日本学術会議公開シンポジウム「学士課程教育における言語・文学分野の参照基準」に出席した大学FD委員、秋岡陽学長、藤本朝巳教務部長、谷知子文学部長が中心となり、講演会を開催することとしました。

### 概要(レクチャー)

日本学術会議（以下、学術会議）が参照基準の策定を担うまでの経緯について、後にいわゆる学士課程答申と呼ばれる中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」（2008年12月24日）のとりまとめ段階で浮かび上がってきた大学教育の質保証という観点についての審議依頼があったことからスタートし、学術会議での議論のなかから参照基準という考えが打ち出されてきた、という流れに沿って説明されました。

続けて本講演会のメインテーマとなる言語・文学分野での参照基準について、大学設置基準の大綱化以降、学位名称（学位に付記する専攻分野の名称）が過剰化したことに見られるように、文学・言語という分野が他の学問分野に較べて専門学問分野としての定義の難しさがあることが述べられました。

この前提のもと文学・言語には学問というものを捨象しても残る部分、そしてそれこそが万人にとって身近な存在であるという他の学問分野とは異なる地点を議論の出発点としたことが紹介されました。

そして、

二重性（基盤であると同時にそれ自体が学問対象として存在する）

ジェネリックスキルとしての読み・書きリテラシー

三つの側面：言語、個別言語、文学

という特徴から市民性の涵養、公共的言語使用能力の獲得という方向性を目指して参照基準が設計され、今回の検討課題となっていない教養教育・共通教育との関わりについても無視できないという課題まで視野にいれていることが説明されました。

また特に言語については複言語主義（multilingualismではなく plurilingualism）、行動中心学習といった Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment（CEFR：ヨーロッパ共通参照枠）の考え方を視野にいれることの有効性について言及されました。

### 概要(シンポジウム)

質疑応答をもとに、参照基準に求めるもの、本学に適用する場合の展開可能性などについて議論がありました。

- ・3部構成（質保証、教養・共通教育、職業接続）の関係性については、質保証を第一とし、次に質保証を成立させるための大学全体での教育プログラムの在り方として教養・共通教育との関係性、そして最後に質保証の成果を活かすための職業接続という順番であること。
- ・学際的な分野、中間領域での参照基準は詰められてないので、当面は隣接分野を参考にするようになること。

そのほか、言語分野の参照基準でいうところの「公共」「市民性」の意味や、大学がユニバーサル化した社会で「専門的」職業人の意味する「専門」について質疑がなされました。



「学士課程における言語・文学分野の参照基準について」レクチャー&シンポジウム の様子

## 5. 2012 Ferris English Teachers' FD Workshop

開催日：2012年9月29日（土）

プログラム

：プレゼンテーション 14:30～17:45 / ディスカッション 17:45～18:15 / レセプション 18:30～20:30

会場：緑園キャンパス 7201 教室

主催：英語教育運営委員会

### このワークショップを企画したねらい

他分野に比して開講コマ数が多い語学科目では、カリキュラムの到達目標達成、質の保証のために担当者間の緊密な連携による各科目の目標共有が不可欠です。

例えば、①25 クラスを展開する「英語 Is (読む・書く)」の担当者全員が、その科目の到達目標に対して共通理解を持つこと、②「英語 Iii」(英語インテンシブ科目：週 6 コマ)において、同一クラス履修者の理解度、到達度を担当者間で共有すること、などです。

この認識のもと、英語科目担当教員に対しては、英語教育運営委員会主催で毎年度 **Lunch Time Meeting** を実施。語学プログラムの説明、ポータルシステムの利用サポートまで総合的に支援。担当者間のコーディネイトをきめ細かく行うことにより、プログラムの一貫性を担保し、履修者の理解度等を把握、充実した指導体制を維持しています。

### 概要

英語教育運営委員会では、英語科目担当教員及び履修者、英語プログラムに関わる課題等について共有、意見交換する場として、2001 年度からは定期的に **Lunch Time Meeting** を設定しています。2008 年度以降は、これに加え、英語科目担当教員対象の **FD Workshop** を開催。授業方法のプレゼンテーションや情報交換により、効果的な指導方法、カリキュラムの改善点を共有しています。

2012 年度は、非常勤講師と専任教員合わせて 25 名の参加がありました。

各教員からの発表は、**Skill 別(Reading, Writing, Listening, Speaking)**に分けて行われ、実践的な取り組みが紹介されました。その後、語学テキストの展示(センゲージ)、小グループでのディスカッションなどが行われました。

プレゼンテーションでは、旅行記ポートフォリオ(**Travelogue Portfolio**)を使った授業、ポータルシステム **Ferrispassport** の効果的な利用法、英語教員による授業報告といった内容が取り上げられました。ディスカッションでは、学生の学習意欲をどう伸ばすかといったトピックも話し合われました。ワークショップ後に催されたレセプションでは、参加された多くの先生方から、「今年も昨年に引き続き、大変有意義なワークショップでした」との感想が寄せられました。

## 6. 2012 年度前期 専任教員による授業参観

期間：6月11日（月）～6月22日（金）

対象：専任教員担当科目

参観者：専任教員

### この活動のねらい

2010 年度～2011 年度は専任教員を対象に、模擬授業「フェリス白熱教室」を実施し、ワークショップ形式の授業における小テスト、課題の与え方、グループワークの進め方、学務情報システムの活用法、板書とスライドの使い分け、ケース教材を扱う授業、全学共通科目で配慮すべき事柄、実技科目における対話と実践を通じた指導方法等を参加者が体験し、質疑応答で細部を確認する機会としました。

目標の共有と実践への理解を、一部の参加者による単発的なものに留まらせることなく、対象を拡大し、定着させることを目的として、2012 年度は専任教員による授業参観を実施しました。授業参観の結果は、報告書により担当教員本人へフィードバックすることとしました。

実施方法や参加者の拡大については改善の余地がありますが、専任教員が担当する全ての授業科目を対象とすることが受け入れられたという点で大きな意義があったと捉えています。

2012 年度活動内容

期間	テーマ、トピック	主催
5月～6月	2009～2011 年度 FD 活動の点検と今後の課題 シラバス改善の効果測定	大学 FD 委員会
5月28日(月)～6月10日(日)	前期 Web 授業アンケート実施	大学 FD 委員会
6月11日(月)～6月22日(金)	専任教員による授業参観	大学 FD 委員会
7月18日(水)～9月26日(水)	カリキュラム・チェックリスト作成	大学 FD 委員会
9月29日(土)	2012 Ferris English Teacher's FD Workshop	英語教育運営 委員会
10月24日(水)	第1回 FD 講演会 DP、CP に基づく内部質保証システムの構築 ～次の一歩に何が必要か～	大学 FD 委員会
11月7日(水)	第2回 FD 講演会 学士課程における言語・文学分野の参照基準について レクチャー & シンポジウム	大学 FD 委員会
11月12日(月)～11月25日(日)	後期 Web 授業アンケート実施	大学 FD 委員会
9月～11月	2013～2016 年度中期計画策定	大学 FD 委員会
11月～12月	シラバス執筆要領の改訂	大学 FD 委員会

2012 年度大学 FD 委員会

	開催日	主な議題
第1回	5月9日(水)	2012 年度前期授業参観について カリキュラム・チェックリスト作成について 2012 年度前期 授業に関する中間アンケート
第2回	6月13日(水)	2012 年度前期授業中間アンケートについて 大学基準協会「改善報告書」について カリキュラム・チェックリスト作成について
第3回	9月26日(水)	各学部・学科によるカリキュラム・チェックリスト作成結果 2013～2016 年度 FD 活動基本方針(案) について カリキュラム・チェックリスト研究討論会(10月24日(水))進行(案)について 分野別参照基準についての講演会(11月7日(水))進行(案)について
第4回	11月14日(水)	2012 年度第1回 FD 講演会(10月24日(水))実施報告 2012 年度第2回 FD 講演会(11月7日(水))実施報告 2013-2016 年度 FD 活動基本方針(中期計画)及びヒアリング結果 2013 年度シラバス執筆要領の改訂について 2013 年度以降授業に関する中間アンケート実施方法の見直しについて
第5回	1月16日(水)	2012 年度後期授業に関する中間アンケート実施報告 2013 年度シラバス執筆要領の改訂について 学修行動調査の検討について 2013 年度授業参観について
第5回	3月13日(水)	2013 年度活動計画について 学修行動調査の実施計画について 2013 年度授業参観について